

4. 第1種高気圧酸素治療装置の問題点と改良

高倉照彦 細波丈靖
(亀田総合病院ME室)

当院では、第1種高気圧酸素治療装置を使用し、7年間で282人の患者治療を行なった。これまでの治療を通じて、第1種治療装置での問題点をとらえ、改良を行なったので報告する。治療患者はほとんどが脳疾患の患者でしめられている。疾患的にも患者との意志の疎通がとれず、ときには治療を一時中断することすらある。第1種治療装置は小型で設備に費用がかからない利点はあるが治療の点ではタンク内のスペースが狭く、挿管されていたり、点滴施行された重症患者の治療にはある程度制限が出る。そこで、できるだけ問題解決をして安全治療ができるように改良した装置をまとめて紹介する。

5. 当院に新設した高気圧治療装置について

高尾勝浩 川島真人 田村裕昭
田中道治
(医療法人玄真堂川島整形外科病院)

当院は、中村鉄工所製の2機の第2種高気圧治療装置を用いて治療を行なっている。今回は、昨年12月に導入した新型高気圧治療装置について報告する。

全長5.5m、直径2.5m、最高治療圧力は、6ATAの横形円筒2室式。内容積は、主室15.0m³、副室6.2m³、計21.2m³。主室での治療患者数は5名である。

改善点として、圧縮空気を用いて床を上げ下げして、装置への出入り時に段差をなくすことにより、ストレッチャー及び車椅子に乗ったままの患者さんをはじめ、杖など使用の下肢の不自由な患者さんの出入りがスムーズに行なえるようになり、大変喜ばれている。また、装置は遠隔操作であるが、装置内観察窓付近に手動の送排気弁を取り付けたことにより、耳抜きが悪い患者さんの加減圧時には、操作者とお互いが直接顔を合わせられることから患者さんも安心するので、全体的に耳抜き不可能による中止例が減った。